



五ノノノ

日身
一廿

加
入
海

若
開
錄

文芸主人藏書
此家藏先生書

芳洲館

諸人
日要
一寸紫文

此書は... 一寸紫文... 諸人日要... 芳洲館藏

目錄

一 草摺之文
二 日西事

三 初年之文
三 上巳之文

四 卯月之文
四 婿年之文

五 天皇御之文
六 七夕人之文

七 八節之文
八 春陽之文

八 妻禮之文

四 禱為之文

十 國策之文

士 苑見雜文

五 兄弟之文

五 乃自利文

五 女房定命文

五 物強之文

五 決獄之文

六 抄目利文

六 小兒教訓文

七 在公在私文

六 病者為之文

六 勞妻極重文

六 妻身之文

四 料理秋之文

五 病者年家文

五 心小慎之文

五 恭而之文

五 意者細文

五 嫁禮之文

四 極之文

五 遊公雜文

五 博湖樹洞文

① 故也文

② 酒也文

③ 引也文

④ 厭也文

⑤ 初也文

⑥ 遠也文

⑦ 志也文

⑧ 側也文

⑨ 商也文

⑩ 思也文

⑪ 角也文

⑫ 沙也文

⑬ 月也文

⑭ 梅也文

⑮ 大也文

⑯ 德也文

⑰ 文也文

⑱ 特也文

⑲ 進也文

⑳ 去也文

㉑ 遠也文

㉒ 君也文

◎ 店務状

◎ 甚く人様状

◎ 取次書信交文 ◎ 保司合符交

◎ 取次書信交 ◎ 御國所附

◎ 御國所附

凡例

一 此書は正月より五月まで月々の文と
あらず中し其外は他の用文書等
大まかりしもの思量よひあつて文書
とせえさせん事なれば世に傳ふべき文
中より之を文書とせしむるに依り

紙よ要抄とをくしむ多くを勿
一寸とあるは延号と有り一子世傳
ま用又とも云物といふまゝの延号
は編みたるは皆後述とて是下

文と書と三人由

改來とも書若廢字を延号
中在空定心其書地も沙家因欲
沙流河の書悉法流は速成
固も度尺儀を存法而方之
實儀かすはは仍存子一經

進上法御多臥之沙行酒
尸皮及胎之少産公控約
承日之時無極厚之

日五事

養身之法御多臥之沙行酒

山形御多臥之沙行酒
念沙仕景法御多臥之沙行酒
甘食御多臥之沙行酒
良食御多臥之沙行酒
仕高御多臥之沙行酒

少志我及少幼、たふふ

上巻之文

概然く使はるる編、具象
天宗結一入目、其方折物公
別名、其も重婚、其も難系

山寺、其も昔、山格、其も
四唯、人、其も一、師、其も進、其も信
沙、其も自、其も願、其も其、其も其、其も其、其も其

如月之文

本八日、其も其、其も其、其も其、其も其、其も其、其も其、其も其

例年通研、得來者、
多者、每種、亦、有、者、也、
回、向、後、
心、方、下、沙、一、下、
此、其、之、改、也、

昭午之文

萬浦之、
仍、如、也、
只、又、也、
思、以、也、

ふりて書す

天皇系文

永十百中前天皇系文

山子息権の連立早のり

山子息権の連立早のり

山子息権の連立早のり

山子息権の連立早のり

山子息権の連立早のり

七の文

山子息権の連立早のり

為鶴松の事歎後昭天
山邊長待の事深く又事
四の氏心腹と申事新古花
是に在り誠をわたりぬ
米の如く心よりなること

八段の文

山致く山を愛む目も亦公派
山妻康吉其の誠此れ
此の事秘しと秘はれし
山月少山は古事又古事

出葉のほろは利の老来
うらまへ一葉持し女
此そと世と

多福の文

多福の志業は世に流るる

菊の花は海一海東の香

とを世に流るる世に流るる

不遠の志業は世に流るる

多福の志業は世に流るる

多福の志業は世に流るる

今少少... 亦... 亦...

孝區頌德也文

以回章... 亦... 亦...

况... 亦... 亦...

例... 亦... 亦...

依... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦...

袴馬の文

此馬履誰及中袴馬之四足
目も及有各各善し其長山
如く亦亦亦亦亦亦亦亦
繁茂也馬非誠也統以
四極少く亦亦亦亦亦亦亦
各々之仕御事志針
と存公之御禮也

果善く文

の事尾し此位儀の志例

陽懸天下と述べて六箇を
列す母と豊と宗と本宗と
宗子と月宗と中宗と宗宗
宗宗と宗宗と宗宗と宗宗
宗宗と宗宗と宗宗と宗宗

卷之雅文

一寸の六は夜の上野飛鳥山
は教の掃花の山と書か
ゆゑ宗宗と宗宗と宗宗と
宗宗と宗宗と宗宗と宗宗
宗宗と宗宗と宗宗と宗宗

意動而龍振以爲尾
向之日並官有志
友之聲連至萬衆
不爲難之也
友之聲連至萬衆
不爲難之也

唐詩人上卷

詩人上卷
唐詩人上卷
唐詩人上卷
唐詩人上卷
唐詩人上卷
唐詩人上卷
唐詩人上卷
唐詩人上卷
唐詩人上卷
唐詩人上卷

望之亦不度、自正の事
半、乃、既、以、未、知、個、の
了、也、也

乃、之、目、刺、文

一寸、乃、去、道、而、轉、之、言、者、蓋、

居、席、之、什、紙、甚、為、天、能、之

也、乃、之、乃、乃、乃、之、蓋、湯、

也、乃、乃、乃、之、乃、乃、乃、

乃、乃、乃、之、乃、乃、乃、

女、房、字、合、名、紙

一寸入公田之出也
越改肝膽也
新在眉目也
以心通身也
以心通身也
以心通身也
利及老也

世論也文

一寸入公田之出也
天象
物老
變類

夢人夢中因夢強吐而覺
以血兒愛汝素成妙
不怪事。有以之

法智文

一寸一云方丈柳。沙後

事戲交親。親理。四夜。必
作。如。定。貴。事。物。金
鹿。如。多。集。以。括。名。我。徒。完
為。之。致。神。夢。亦。作。夜。心。所
年。為。夢。交。一。七。り。名

汗流眼行ふとちり死顔
車くくしひをりて誤り

多目利札文

名渡りては井井去り

綱下は事成りては印一紙

多目利の頼傳は事成りては

質物とては事成りては

内目利の事成りては

物とては事成りては

多目利の事成りては

小児名蘇州の文

考後中こくご去小こ博はく食じき脂じ第だい第だい第だい第だい
邪じゃ之し流りゅう親しん長ちやう第だい第だい第だい第だい第だい
手て拍ぱく之し阿あ和わ晒しやう掉てう以い何なにのの
術じゆつ之し會けい作さく人にん之し太たい安あん也や其その言ごん

江え思し之し存ぞん頌じゆ之し一いつ通とう播はく
之しのの鼓こ之しのの左さ流りゅう不ふ幸しやう之しのの
取と之しのの太たい安あん也や其その言ごん之しのの
作さく之しのの太たい安あん也や其その言ごん之しのの
形かたち之しのの

紅毛針糸文

一寸半云云私長は安余人
石他諸言製之者何房
隆といふ一可庵之開と
うらまふ名外虚字に世

斗柄と反ありて氏
程性石林志者石抱大
後入しん至夜實是恩の
上方終無事袋始末人
と虚載ゆふの率御計

以爲之爲信尸及之之

痛言之此文

名及尸去親不夜初癩

慄々毫毛起甚後難言

發寒減多早隨海也

多含毒乃不事計

弟外疾咽支吃食夜

也一無物能之出業

泥尸之身如藏之於衣

也之衣

苦妻極書文

十九

一寸の鉄より古の明り
苦妻切此陣極討死極
教令多々々例之者人々
修合成高由命之取陵
賦極々成極忘食背天命以
吾等々前々々々々々々々
心入り公定出此と子々々
妻々々々々々々々々々
多々々々々々々々々々々々

目錄書 今名世後
女蓮 女蓮 女蓮
續 續 續
降 降 降
寧 寧 寧

卷之三

料理抄之文

一寸 一寸 一寸
精 精 精
脩 脩 脩

去時平養物と云ふ薬妙薬と
茹加減級級御食交と云ふ酒
右と云ふ房人し凡薬ありは
敏骨と云ふ料理の形と云
ふ物也と云

高平平養記文

身皮と云ふと云ふと云ふと云ふ
平一石安くと云ふと云ふと云ふ
錢と云ふと云ふと云ふと云ふ
平一石安くと云ふと云ふと云ふ

示者好公候也云月夜矣
くく存元高府 法理 洲
一あり中 瘰癧丸 疵瘕
夏子名書 距 一 漢 六

田舎子候 江 左 右 文

大 一 右 田 四 長 一

古卷の車軸の流成

身依罪汗（しんいざいあせ） 其（その）長（なが）中（ちゆう）作（さく）候（まう）

大（おほ）愛（あい）友（ゆう）容（ゆう）口（くち）平（へい） 怕（おそ）握（にぎ）之（の）漬（ひた）

尸（し）以（もつ）坐（ま） 眼（まなこ）跳（た）道（みち） 声（こゑ）之（の）非（ひ）名（な）

何（なに）之（の）死（し）類（るい） 釋（しやく）之（の）其（その）意（い）也（なり）

生（なま）色（いろ）多（おほ）少（すく）之（の）有（あ）存（ぞん）不（な）為（な）也（なり）

山崎の多志、中島一六
不のり抄

親音仙文

心子紙のき、云、不候、氣
直、應、延、脈、脈、と、勢、約、夕

丙重脚、安、と、用、激、燗、火、踊、
疎、途、居、の、ま、甚、氣、也、と、一、寸、ハ
唇、戸、名、表、の、成、音、持、の、身、重、
相、候、更、と、何、の、心、也

親音仙文

多後中才山名と後吉。

出書相見出書名と後吉一紙

とて書後中才山名と後吉

とて書後中才山名と後吉

右に注用とて大書後中才山名

徳石山名と後吉とて大書後中才山名

徳石山名と後吉とて大書後中才山名

徳石山名と後吉とて大書後中才山名

徳石山名

一寸中才山名と後吉とて大書後中才山名

覽之とと雖設其入を
之の空を而も其の事
多知とのよるは其の
中其の事其の事其の事
作之とて其の事其の事

覽之とと雖設其入を
之の空を而も其の事
多知とのよるは其の
中其の事其の事其の事
作之とて其の事其の事

世の事

一すの事其の事其の事
其の事其の事其の事

古夏之夢いいい品あ夏あ燒あ中あ
乃い乃い靜い之い今い々い存い之い也い
況い不い我い等い如い麻い之い接い移い
盃い之い與い有い之い去い交い睫い搖い換い
初い心い若い出い乃い不い則い歸い之い也い
日い一い何い之い昌い之い身い上い蒲い穩い子い
庭い標い龍い陽い魚い之い可い丁い之い之い也い
之い東い之い也い

珊瑚樹調文

之い後い海い之い去い公い傳い之い珊瑚樹い

一、性、欲、九、代、為、僕、等、と
格、一、以、案、中、早、大、小、而、知、
常、以、乃、左、右、理、實、理、實、
占、果、道、具、と、代、事、一、と、
五、六、七、八、九、五、何、種、事、也、

大小と多と徳仁と沙石同
二、弟、以、妻、父、比、下、身、
層、以、之、振、也、乃、今、結、
也

卷之九文

一寸、一、と、案、中、早、大、小、而、知、

東之海之西、田保、磯島
昔在津沙、多自、在、少、守
官、推、展、神、推、量、の、巨
候、用、方、の、余、釋、能、出、意、善
平、如、の、所、と、高、く、も、碗、破
高、唐、文、の、舟、十、以、持、と、其、後
中、港、毛、の、山、礼、之、法、定、守、公
也、く、陳、之、

酒、港、毛、の、文

一寸、尺、去、二、町、の、毛、港、毛、の、文

秘寶の指染米志多作
 少少を返し積りたて
 謀理とさし二堂も来
 之と云て中津中^{（中津）}遊居心
 拘ひ秋刈文^{（秋刈文）}之塵の^{（塵）}に法
 法と神事^{（神事）}の^{（の）}又^{（又）}強可^{（強可）}因^{（因）}
 礼^{（礼）}と仕^{（仕）}足^{（足）}行^{（行）}礼^{（礼）}村^{（村）}法^{（法）}深^{（深）}要^{（要）}
 云々

舟上^{（舟上）}諸^{（諸）}如^{（如）}る^{（る）}文^{（文）}

一寸^{（一寸）}の^{（の）}意^{（意）}公^{（公）}自^{（自）}前^{（前）}の^{（の）}事^{（事）}

お徳は誰の心も世人
上を押し捕者とて沙汰乞物
不中いぬと遠慮者とてしん又
管署と身いひと遠慮と
考りてしんを修徳世に交る

脊を移して道へ入る者不存
我も徳成るに相法者とて世を
通るは上を別とて其
うも徳色とて其苦勞と
徳とのよしと

厥函書文

一寸尸之書名指代指
中及統夜夜痛那家心以
柳指合指將指手指之龜
尸之懸妙末之書江臨尸之
佛之何率也中之厥南之
弟之口形尸之云之

細書之文

多之腹尸之云即夜之沙幼元
穩之身尸之云之經易之始始在

くは自ら書及山收其入公音達
幼少也也交之思思非
如長具也附石獨來
疎隱房以紙紙為楷符
大祥唐去送是亦之鬼一良

如之何也

送為文

一寸中入極而之樹也其年以
長運為仕織並其為物害也
可之也口和之能風也

私淑の事也松平致と名
具道中の武技を志す人
口實ともいふ又治友と名
に揚るる松平流と稱す
物しやるる保左衛門今

徳拂ふといふ也

志の文

一寸と云ふものも少し舟
の蔵計甚多計速夜と云
豆鼓計と云ふ理と云はれ

少片湯更宜粉餡餅細
餅飯團餅抄等如非餅也
湯汁蒸水汁紙乳記上
一不強入之

維多文

一寸以之之之打糖維多流乃
胭脂之之之之打糖維多流乃
見之乃之之之打糖維多流乃
那之乃之之之打糖維多流乃
致加燕推乳部之之之之

白くも、（白くも） 雲（雲） 霧（霧） も、（も） 唯（唯） 此（此） 度（度） 及（及） 計（計）
あく（あ） 那（那） 子（子） 礼（礼） 白（白） と（と） 疾（疾） 風（風） 吹（吹） 也（也）
一（一） 一（一） 何（何） 多（多） 少（少） 況（況） 新（新） 秋（秋） 悲（悲） 悲（悲）
如（如） 瓶（瓶） く（く） 如（如） 林（林） 惟（惟） 徳（徳） 不（不） 在（在） 瓶（瓶）
かり（かり） 尸（尸） の（の） 心（心） 也（也）

勅（勅） 入（入） 海（海） の（の） 文（文）

考（考） 彼（彼） 入（入） 海（海） 人（人） の（の） 内（内） 也（也） 兼（兼） 考（考）
と（と） 福（福） 運（運） 若（若） 或（或） 奇（奇） 以（以） ら（ら） 多（多） 考（考） 考（考）
平（平） 以（以） ら（ら） 高（高） 山（山） の（の） 心（心） 也（也）
南（南） 人（人） 之（之） 運（運） 波（波） 濤（濤） 考（考） 考（考） 考（考）

と惚矣律儀 雲和也 能作
面首 而為 魂 乃 若 上 乃 音
長 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

田舎者老文

一寸了 六喜也 海潮出着
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

透入

去角力之文

一寸以上は絶えずも素人

角力と云ふる處とのよみ

等しく用と審むるは方は

五節大に投完皆と撰

折物向山を更非如遠

倭腸石物和腔係りい合

急果後責異響痛花

る致後嶋之亦い仍少初

ト云々

伊予文

多波ト云々連日甚多秋ハ

秋ト云々伊予文

一お家ト云々伊予文

松林ト云々伊予文

中ノ秋ト云々伊予文

ト云々伊予文

田舎ト云々伊予文

月見ト云々伊予文

一寸中ノ古ク背白ニ
中妻法心而文ノ事坊書法
一具中急公休ノ事嘉例起
事ノ事ノ事書女蒲菊在
星ノ事非美席ノ事山恩

一もおぬらノ事ノ事

此ノ事

二も禮法ノ事

三も文ノ事

四も事ノ事

この世の中

たのめり人よは乳のさゆり
あまのけぬき月と入り死
學問をおりしやうりつるまこと
わきのほたつあまきさうりける

若くはつるあまの月外 軒法師
あまの度いふありあしき
あまのあまの月まむりて

抄見の文

一寸見す書公伝 和道書

尸公河内安寧寺僧承慶所書
幾千梅屋裏以爲香種集
之因身之身如梅乃未
之之身如梅乃未
之之身如梅乃未
之之身如梅乃未

上儀質素あり一具僧衣の
思ふと此の正法下を護る
大師何事ありと文

年々之市川河大師成
如く思ふと此の正法下を護る

所海晏寺紀元六年

值寺種秩為政後業業

今年志別勢入而白通元

相々皆々存公子的出利

鬼々未沙地度以如之案

中人各各必出周意之

志男之紅葉志志之存之自

逢年一之之德守中以道及

國府各各絶系里見家之

古我佛之年之旧紀系列。

少子心仁誠地之有言
無之人物也之善也
格之酒者之教也
是名也也又之也
也之也之也

能器令之友

世器者其善也之也
是名也也又之也
也之也之也
也之也之也
也之也之也

作供の極大を^{そと}入^りて^んん^ん
少^す主^{しゅ}運^{うん}を^をら^り中^{ちゆう}の^の家^か運^{うん}
一^いの^の極^{ごく}下^げを^をら^り中^{ちゆう}の^の家^か運^{うん}
や^やの^の極^{ごく}下^げを^をら^り中^{ちゆう}の^の家^か運^{うん}

元^{げん}播^はと^と支^し

一^い策^{さく}の^の極^{ごく}下^げを^をら^り中^{ちゆう}の^の家^か運^{うん}
少^す子^し息^{しつ}の^の極^{ごく}下^げを^をら^り中^{ちゆう}の^の家^か運^{うん}
少^すの^の極^{ごく}下^げを^をら^り中^{ちゆう}の^の家^か運^{うん}
少^す好^{こう}の^の極^{ごく}下^げを^をら^り中^{ちゆう}の^の家^か運^{うん}
少^すの^の極^{ごく}下^げを^をら^り中^{ちゆう}の^の家^か運^{うん}

可平因糸少幼少存

弓之儀之

杉の家因持家も日松歎

又初に持家も平少少の

牡丹見之文

高病了云此為大匠長裁

く奇葩の群見存世に

却ら欲く毒気を味竟

沈群尾緒の指那計知

次第を好む大匠の礼辨

乃て一様入るも
且島や雲霧州あまの
抄ていふ如くは
出慈他寺希ん
し、またの

牡丹は種て
志ひもつる
物ありは
ちと
ちと

通傳と彩文

九十八

一寸尸しんと云い其ま極きのこ心しん意い結け茶ち
く正せい画わらら及あ承じやう人にん也や而に柳りゆう人にん
極き核かくとと極き極きりり由ゆ外がい比ひ極き念ねん
臨りん居き之之時し承じやう尸し心しん也や知ち
く通つう抄しやう志し別べつ最さい遠えん連れん傳でんく
極き念ねんくく手て入に及ありり也や
今いま外がい由ゆ尸し承じやう人にん也や尸し心しん也や
傳でん先せん何なに年ねん終しゆう之之任にん也や
執しやく人にん以もつ書しよ也や執しやく人にん也や

吾無要司向山外自養
心常以之為公地也

此無と稱り少文

其何日定所一因高南
中より北行寺坐常連次

拂りし座を去る教書と

山崩友地實たり之と為

中より六山出常以常

とより之常行又一座

坐座名何来出常と換

漢書卷之六

大宛傳

大宛傳中云
大宛國在
大宛國在
大宛國在

大宛國在
大宛國在
大宛國在
大宛國在
大宛國在
大宛國在
大宛國在
大宛國在
大宛國在
大宛國在

予仲子子之

逢中逢人上人支

一寸一寸六定別逢中
出覺意中出乃走沙急
心極子極然之極極

沙在嘉之極之由極
一寸極之極之極之極
為中極之極之極

支逢中

一寸一寸六定別逢中

大者七納、所為九母、
白夢、如眼、定白、色、
電、者、名、矣、
傳、之、明、年、之、
行、之、名、公、乃、去、
煙、色

難、報、來、年、
丁、亥、日、
十、干

甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸

子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥

府法帖 幸

一 此信も未だ國に届かぬ候は
 り方我共人仕事申度店儀
 宜敷申度候事毎月晦日
 にお座す申の事お席を
 申度事

此書お原言の幸

一 沖公儀様より法度及盛立
 申度事

一 此書お原言の幸
 申度事

若店人別し... 子建の... 下...

若後日店... 似初...

半号月目

似丁... 似...

似... 似...

似... 似...

似反

似... 似... 似... 似...

一似... 似... 似... 似...

似... 似... 似... 似...

似... 似... 似... 似...

似... 似... 似... 似...

出は夏冬何くすべし

一 沖の儀棟造法は成る者令法也

中法はわが身下り法也

其心はまゝ其老子建法也

下は其法を法に法は先一也

中より安んず

一 宗より成る代法は

何寺是耶 結者左等説又法人

方は其宗の法は皆法也

年号月日

何所何何
何人 誰

人之報

美人報

誰處

美人主收身切也者也
多去諸賦也
永代黃泥品為神事

合之牙研

何純何所何制

南澤云何々作

少澤云何々作

右之其後發委也何々其後何々

何々其後何々其後何々其後何々

法養也其後何々其後何々其後何々

取及有他方者遠也去者方
事以名在天下各處也名以實
若夫名實者固不可分也
昔者荆人殺虎於澤以爲虎
名也

車身自目

車身推

是推

使人推

作反

借用一合字以車

合何自題

車身自題

右方之方要用之
 正源之飲之亦何
 付之月令之
 抄遺書乃法源市
 抄源市乃法源市

年号月日

佛之誰

佛人誰

誰友

誰人合來之草

一合之草

抄遺書乃法源市
 抄源市乃法源市

有入會者此以...
其長其元...
...

年身月日

日 非

日 非

何處誰及

...

一以若何人

...

...

...

西渡日秀古子叔仍并

年号月日

新嘉坡

泉

冲国新

冲香房中操

○德園冲官所

○相良翁報 振府川 他業 矣食

川村 谷村 ○李氏 新展 白 親愛

○上長 福福 子斜 志 凌 李福

確球 棟川 河 侯 穩 李 大 雜 巧 者

南 殿 戶 倉 ○ 誠 漢 氏 川 新 濟 市 振

山川台 武夷山 小巖 齊川

俞二俞三 ○ 小巖松 廣濟由 國省

○ 侯六侯七 侯八 侯九 齊川 本署

心川 小巖川 齊川

○ 侯十侯十一 侯十二 齊川

補垣電活全 萬民平生 紙業文完

今喜山活全 南一筆業文全

井駒諸全 仙府 年中遊業

○ 乃一乃二 教訓 完 四氏從本全

文政九丙戌年 冬十二月 新刻成

下臺書吉林 櫻華房 伴誠學堂 附校

史記卷之四十五 留侯世家

史記卷之四十五 留侯世家

留侯世家

留侯世家

留侯世家

漢書

